



楽々亭通信

第 3 号
令和2年11月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

楽々亭は第4回目を

開催いたしました



「阿弥陀さまとともに」

本願寺派布教使

安堂芳雅

数年前「この世界の片隅に」というアニメーション映画が上映され、多くの方々の胸をうちました。戦争中のほのぼのとした夫婦愛や、義父母に献身的に仕える姿を描いた作品です。

人間の強さ、優しさ、勇気のすばらしさに感動すると同時に、それらには限界があることに気づかされました。

私達の心は縁によって変わります。ことに大切な人や自身の死を前にした時、強かったはずの心はいとも簡単に壊れます。その苦しみ悲し

みは誰に代わってもらってもできず解ってもらうこともかかないません。しかしその私の苦しみ悲しみに寄り添って下さるのが阿弥陀さまです。

阿弥陀如来のお名前、「阿弥陀」とは、古いインドの言葉の「アミタ」で、「無量の命と光」という意味です。

阿弥陀さまは、無量の命となつて「いつでも」、

無量の光となつて「どこでも」、「その苦しみ悲しみ共に背負って生きていくよ」とご一緒下さっています。私をどこまでも追いかけて抱きとって下さり、一度抱きとれば決して捨てられることがない仏さまです。

私達は悲しみの真つた

だ中、苦しみのどん底にいる時、自分自身を投げ出したいくなります。けれども、阿弥陀さまは決して投げ出すことなく抱きしめて下さるのです。

変わりゆく私達ひとりひとり「この世界の片隅」で暮らしていても、そこは阿弥陀さまのお慈悲のど真ん中なのです。



阿弥陀如来



楽々亭に参加して

夫の四十九日を済ませ3日目の10月31日に初めて楽々亭に寄せて頂きました。

まだ自分の中では夫の死とこれからの自分の事で頭はいっぱいの状態ですが、何とか乗り越えなければと思いつつ、安堂先生の湿っぽく無く明るい話し方に好感をもちました。

自分は信心深くなく(実家は神道)嫁ぎ先が浄土宗で母は信心深く、夫も日曜日の朝は日常勤行式と言う、お寺さんに頂いたお経を唱えていました。

そんなわけで、これから先、良いお話を聞かせて頂ければと感じました。光木さん、お世話、有難う御座います。

菅沼清子

楽々亭の4回目、初めて参加させて頂き、最初は不安もありましたが、和やかな雰囲気になりました。いろいろ教えて頂きました。

安堂先生のお話「ひとつの物を見ても、その人が持っている気持ちによって違う。人の心は分からないのは当たり前、それぞれの世界でしか生きられない。共有できないなら、同じ方向を向いて一緒に生きていきたい」を聞いて、本当にそうだなとしみじみ思いました。

そして「言葉は人を殺すこともできるし、人を救うこともできる。だから、心から絞り出すような優しい言葉で繋がっていきたい」を聞いて、何事も自己中心の私は知らないうちに人を傷つけているのかもしれない、と反省しました。

奥村文代

四回目の楽々亭に参加させてもらいました。それぞれの想い、それぞれの期待を持ちながら集まった人を前に、安堂さんは持ち前の明るいあたたかな語り口でお話しして下さいました。

一度有難いお話を聞いたら生きる道が開けるというものではないでしょうね。安堂さんは私たちに「心は体の何処にあると思うか」ということと「死とはどういうものと考えているか」と問われました。それを自分に問い直してみながら、普段の生活と違う静かな時間を過ごさせていただきました。

私の心に残ったのは「人と人とは分かり合えないのが当たり前。なんで分かってくれないのかと思うからしんどい」という見方です。

集まった方のそれぞれの人生を垣間見られるのも良い時間で、これからもいろんな方に参加していただきたいと思いました。

光木和子

「白いノート」が歌に

ともしび通信30号で紹介しました奥村さんの「白いノート」に歌声喫茶でいつも演奏して下さいている盛永先生が曲をつけてくださいました。歌声喫茶で皆さんと一緒に歌いましょう。

白いノート

奥村文代

白いノートが 欲しいのよ

心の内を 書きたいの

書いて荷物を 降ろしたら

幸せ色の さわやかな

目覚めの朝が 待っている

白いノートを もらったら

やっぱり余白 残します

みんな使うと 不安なの

いつでも想い 埋められる

自由なページ 欲しいから

白いノートは 不思議なの

過ぎたあの日の 悲しみに

こぼす涙を ペンが消す

欲しいものはと 聞かれたら

白いノートと 答えます

おもしろ川柳

日帰りで行って見たいな
天国へ

紙とペン 書いている間に
句を忘れ

延命は 不要と書いて 医者
通い

目覚ましの ベルはまだか
と 起きて待つ

改札を 通れずよく見りや
診察券

誕生日 ロウソク吹いて
立ちくらみ



楽々亭第5回 11月の予定

11月27日(金)

西京区役所洛西支所会議室

1時30分~3時30分

10月に開催した場所です。

表玄関から入って下さい。



楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。